

実務実習事前学習への SP 教育の導入に関する考察

○岡野 善郎¹, 石田 志朗¹, 庄野 文章¹, 松永 洋一¹, 市川 勤¹, 宗野 真和¹, 長島 史裕¹, 田中 正巳¹, 宮高 透喜¹, 梅山 明美¹, 松井 敦聡¹, 末永 みどり¹, 川上 隆茂¹, 井口 美紀¹, 岡本 育子¹, 平井 みどり² (¹徳島文理大薬, ²神戸大病院薬)

【目的】薬学教育六年制の 5 年次で実施される長期実務実習に向けて、実務実習事前学習に対する具体的な取り組みが求められている。また、その成果は 1 年次からの知識・技能・態度教育に対する教育的評価の対象となる。本学での態度教育のきっかけは、平成 15 年度より医療薬学実習時に平井みどり先生（当時神戸薬大、現神戸大病院）および神戸 SP 研究会の協力を得て導入した SP（模擬患者）教育に端を発する。今回は、実務実習事前学習の一環として行った SP 教育の概要と課題について報告する。

【方法】平成 20 年 10 月、12 月に 3 年生（六年制）を対象に行った。項目は、学内の OSCE 実施委員会の教員と医療薬学系大学院生、および神戸大学病院、神戸 SP 研究会による SP に関する講義、ロールプレイ、SP 演技の供覧などを行った。

【結果・考察】SP 担当の教員は、平成 19 年 7 月の指導薬剤師養成 WS の際、昭和大薬学部・木内祐二先生の講習会、さらに平成 20 年 6 月の昭和大横浜市北部病院・中島宏昭先生による態度教育の講演会、7 月の指導薬剤師養成 WS 講義などの受講を課した。さて、3 年生の SP 教育に対する理解度は学生間でバラツキが認められたこと、また単回では不十分で、継続的（例、年次毎）な実施が有用であろうことがわかった。さて、教員の SP 教育への関与は想定していた以上に効果的であり、また状況によっては神戸 SP 研究会や一般市民の方がより適していることが示唆された。社会へ向けて行う情報発信（医療安全など）の不的確さは、日常的な学生生活から派生していることも考えられ、これらも取り組むべき課題の 1 つである。